

こんなときは

新潟日報紙「健康」欄に読者の質問に答える形で連載

Q：生理時の頭痛、腹痛に悩む

中3の娘は、小5の時に初潮があり、だいたい順調です。しかし、1日目の生理痛がひどく、腹痛、はき気、発熱などで寝込むほどです。婦人科で受診した方がよいのか迷ってます。

(新潟市・主婦)

毎月、生理の前日は頭痛がひどく、生理になると腹痛を伴います。そして3日目ぐらいで出血が止まるとまた頭痛がおきます。結婚して9年、まだ子供はできません。

(新潟市・主婦・36歳)

A：月経困難症、心理的要因も

相談者は、いずれ月経に伴うとうとう疼痛ということですので、月経困難症と診断されます。中学生の方の場合は、原発性月経困難症と思われます。この場合、一般的な身体検査では原因となる異常はみられないと思います。原因としては痛みに敏感であったり、心配性の親、誤った性教育や性に対する見解などの心理的、社会的要因など多くの因子が関与していると考えられますが、疼痛は、子宮で過剰に生産されたプロスタグランジンという化学物質が、子宮の過剰収縮を引き起こして、子宮虚血、子宮の収縮性疼痛を引き起こすためにおこります。

めまい、悪心、頭痛、下痢といった症状もこのプロスタグランジン作用のためです。一般の鎮痛作用で効果がみられなくても、プロスタ合成阻害剤で多くの場合疼痛は緩和されると思います。専門の産婦人科医に一度相談されるとよいと思います。

主婦の方の場合は、年齢や不妊症であることなどを考えると、骨盤内に子宮筋腫や子宮内膜症などの異常病変がみられるかもしれません。骨盤内に病変がみられるために発症する月経困難症は続発性月経困難といって、月経のかなり前から症状がみられて数日間続くこともあり、また高齢になって発症することも多く、異常性感症や月経痛を伴うことも少なくありません。早い時期に産婦人科専門医に相談されることが必要と思います。相談に行かれるときには、できれば基礎体温を記録して、その基礎体温表を持参されるとよいと思います。